

申請団体名/事例名称 **岩手大学/学生参画によるエコキャンパスづくりから環境教育・ESD (持続発展教育)・環境人材育成への展開～岩手大学のサステナブルキャンパス実現とサステナブルコミュニティ貢献に向けて～**

岩手大学における環境教育・環境マネジメントシステム (EMS)・環境人材育成を総合的に展開するエコキャンパスづくりは、岩手大学のサステナブルキャンパス実現に向けた活動の基盤となっている。学生参画のエコキャンパスづくりで中心的な役割を担っている組織が**岩手大学環境マネジメント学生委員会 (EMSC)**、学生の参画を促す環境教育を含めている活動が**岩手大学環境人材育成プログラム**である。両者は岩手大学内のエコキャンパスづくりにとどまらず、地域社会・行政・民間企業などとの協働を通して、サステナブルコミュニティ (持続可能な地域社会) への貢献にも展開し始めている。

【学生の参画による岩手大学のエコキャンパスづくり～岩手大学環境マネジメント学生委員会の活動】

2008年10月1日に設立。**有志学生の14名から始まったEMSCは2016年4月現在104名へと人数を増やしている。**

岩手大学の環境方針に従い、ISO14001 認証取得に向けたEMSの構築・運用に学生が主体的に参画、大学側と協力してその責務を果たし活動することを当初の目的としていた。2010年11月に岩手大学がISO14001を認証取得した後も、岩手大学EMSの維持と大学・周辺地域における環境の継続的改善のために活動を続けている。**岩手大学の環境マネジメントシステム上、EMSCは公式の組織であり、所属学生は教職員と同じく構成員に位置づけられている。**このような**組織体制上の位置づけが、EMSC所属学生が教職員と協働でEMSを運営する根拠**となっている。

EMSCは環境教育・企画・広報 Web・省エネ省資源・廃棄物・グリーンキャンパスの6チームで構成【スライド①参照】。地域住民、特に子供を対象に岩手大学のキャンパス内で体験的な環境学習を提供する「エコキャンパスツアー」の開催、『岩手大学環境報告書』と環境教育用DVD・パンフレット「学生が作るエコ岩大」編集への参画、キャンパス内の廃棄物分別・講義室利用状況調査やゴミ拾い、留学生対象のゴミ分別オリエンテーション、学内ペットボトルキャップの回収・分別・社会福祉施設への提供、学内古紙・化粧品容器回収、フリーマーケット、打ち水、風鈴の作成・設置、学内省エネ広報誌の作成と配布、キャンドルナイト、図書館横の緑のカーテンやたい肥づくりなど、工夫を凝らした様々な活動を行っている。

他に、岩手大学におけるEMS運営組織である環境マネジメント推進室会議への出席【写真②参照】、同室内の環境影響評価・環境教育・省エネ省資源・ゴミ減量廃棄物削減・サステナブルキャンパス構想の各ワーキンググループ出席などを通して、岩手大学EMSの計画・実施に関わっている。

【学生の参画を促す環境教育・ESD (持続発展教育)・環境人材育成】

2000年に、人文社会科学・工・農学部で環境を専門分野として扱う学科や課程が生まれたことを踏まえ、全学共通教育として**「環境科学科目」(2016年度から「環境科目」)**4科目が開講され、現在12科目に増加。4学部60名の教員が「生活・都市・社会・水・廃棄物・森林・動物」などのキーワードと環境を結びつけオムニバス講義を担当。学部生は12科目から1科目を選択、受講する必修科目となっている。

2006～08年度には、文部科学省採択「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)事業「持続可能な社会のための教養教育の再構築『学びの銀河』プロジェクト」に取り組んだ。**ESDの価値観**の下、幅広い視野と人類的課題に関する知識を持ち(横軸)、深い専門性を備えた(縦軸)「T字型」人間でイメージされる「21世紀型市民」、持続可能な社会づくりのコーディネーターが育成されてきた。

2009～11年度に、環境省採択**「ISO14001と産学官民連携を活用した「π字型」環境人材育成プログラム」**が「学びの銀河」プロジェクトの後継事業として始められた。環境省の支援が終了し、同プログラムの開発が完了された後も、岩手大学で引き続き行われている。

岩手大学環境人材育成プログラムは、「学びの銀河」プロジェクトの実績を継承発展させ、「ESDの価値観」を持ち、環境分野の基礎知識に関する「基礎的環境力」(横軸)と4学部(人文社会科学・教育学・理工学・農学)の専門性(縦軸1)に加え、環境マネジメントに関する知識・スキルを体験的に習得する「実践的環境力」(縦軸2)を備えた「π字型」環境人材の育成を目指す。所定要件を満たした岩手大学の学部生は、「π字型」環境人材育成の証として、学長から**岩手大学認定資格「岩手大学環境管理実務士」**が授与される【スライド③参照】。**2011～15年度まで5年間で19名が「岩手大学環境管理実務士」を授与**されている。

「ESDの価値観」を養成するために「学びの銀河」プロジェクトで構造化、可視化したラベリングに基づき、2015年度まで**ESD科目**を選定(2016年度はラベリングに基づかずに21科目を選定)。岩手県知事を始めとする岩手県内自治体の首長や岩手県内の企業・NPO(特定非営利活動法人)関係者を講師として、それぞれの「持続可能なコミュニティづくり」「ESD・持続可能性」に関わる活動を講じる科目などがある【スライド④参照】。「基礎的環境力」は「環境(教育)科目」で養成。他に、新入生を対象として、EMSC教育チームなどが作成した「環境教育用パンフレット」の配布と基礎ゼミナールにおける「環境教育DVD」の視聴で環境への意識づけをはかっている。

「実践的環境力」養成のために、同プログラムで**環境マネジメント科目**を新設。岩手大学が運営しているEMSを教育に反映、環境教育研修の一環として開講されている。EMSの基礎知識や環境マネジメントシステム国際規格ISO14001の要求事項などを習得後、受講生は教職員とチームを組んで、岩手大学のEMS内部監査を体験。環境マネジメントの実践的スキルを培っている。**内部監査補助員としてEMS内部監査を経験した受講生は2010年度から7年間で78名**になっている【スライド⑤参照】。

【岩手大学内のエコキャンパスづくり・環境人材育成からサステナブルコミュニティの地域貢献に向けて】

岩手大学環境マネジメント学生委員会(EMSC)の活動と岩手大学環境人材育成プログラムは岩手大学キャンパス内にとどまらず、地域連携をはかりながら、サステナブルコミュニティにつながる地域貢献へと展開している。

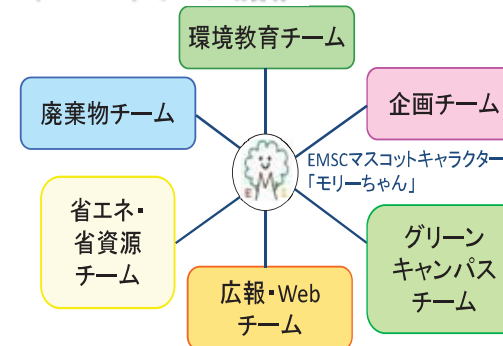
EMSCは特定非営利活動(NPO)法人インクルいわて【民】の依頼を受け、2014年度から年2回、環境教育チームを中心に、親子を対象とする体験的な環境学習を企画・実施。これまでに植物の叩き染め・ペットボトルを使ったハンギングバスケット・打ち水・プリンカップを使った風鈴づくりなどを行ってきた【写真⑦参照】。また、岩手大学図書館で「緑のカーテン」づくりに取り組んでいたEMSC所属学生に岩手大学周辺にある幼稚園の園長から依頼をされ、同幼稚園での体験的環境学習を2014年度から年2回実施。紙芝居や植物の叩き染めなどを行ってきた【写真⑧参照】。

2016年度から、廃棄物チームと小型家電回収・リサイクルを行っている岩手県一関市にある企業【産】との環境活動や廃棄物チームリーダーが盛岡市ごみ減量資源再利用推進室会議委員に就任するなど、EMSCによる環境分野を中心とした地域貢献活動も新たな展開を見せ始めている。

岩手大学環境人材育成プログラムでも**産学官民連携**を活用し、地元の中小企業の環境報告書作成支援による環境経営に貢献する講義と地域貢献の学外実習(インターンシップ・ボランティア活動)を行っている。前者は「実践的環境力」養成のための**環境マネジメント科目**として2010年度から開講。**6年間で49名の受講生が岩手県中小企業家同友会【産】加盟企業18社の環境報告書の作成に協力**【スライド⑥参照】。そのうちの1社によるEMS規格「エコアクション21」認証取得にも岩手大学生3名が学外実習の一環として支援に関わった。他の学外実習として盛岡市役所【官】によるEMS規格IES(いわて環境マネジメントシステム・スタンダード)の自己評価に2011年度から4年間で9名参加した。

2016年度人文社会科学部地域政策課程への改組を契機に、中小企業の環境報告書作成支援から中小企業の環境活動とエネルギーシフトに関する課題への提案を行う講義内容の変更を2017年度から行う予定にしている。岩手県中小企業家同友会によるエネルギーシフト・ヴェンデ(大転換)運動への貢献を目指すことで、同プログラムにおけるサステナブルコミュニティに向けた地域貢献活動もさらに展開されようとしている。

① **岩手大学環境マネジメント学生委員会 (EMSC) チーム構成**



環境マネジメント推進室会議にEMSCメンバーも参加

③ **岩手大学環境人材育成プログラム 「π字型」環境人材像**



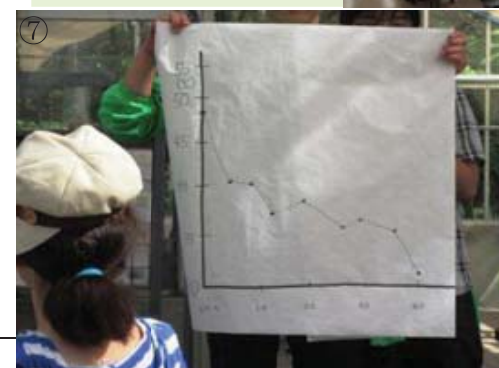
⑤ **環境マネジメント**

教育推進機構 環境マネジメント推進室

(1) 1年次後期 **「環境マネジメントと岩手大学」** ISO14001を含む環境マネジメントシステムの基本知識を理解してもらう科目 **7年間で431名講義登録** (高校生1名を含む)

(2) 2年次前期 **「環境マネジメント実践学」** ISO14001の学内監査員として研修・実務に携わる実習科目

7年間で 内部監査補助員78名 が内部監査を体験



NPO インクルいわてで体験型環境学習：打ち水結果発表

④ **ESD科目**

教育推進機構 「持続可能なコミュニティづくり実践学」(1年以上前期)

①「環境マネジメントと岩手大学」 ②「環境マネジメント実践学」 ③「環境マネジメント実践演習」

連増拓也・岩手県知事 本田敏秋・遠野市長 鈴木重男・巻町長 稲葉暉一戸町長

田村満 中村智雄・前巻町長 中村智雄・前巻町長 田村満 中村智雄・前巻町長

なつかしい未来 創造株式会社社長 ヤマニ醤油社長 森は海の恋人理事長

新沼茂幸 高山重篤 NPO法人 森は海の恋人理事長

「地元の企業に学ぶESD」(1年以上後期)

⑥ **環境報告書**

人文社会科学部環境人材育成WG INS:CSR/環境人材育成研究会

(3) 2年次後期 **「環境マネジメント実践演習」** 学生が中小企業の「環境報告書」作成に協力する実習科目

6年間で49名が、岩手県中小企業家同友会加盟企業18社の環境報告書作成協力

地域を学びのフィールド ⇐ 岩手大学内での学び・体験

↓ 岩手大学環境人材育成プログラム

地元中小企業のグリーン化(環境経営) INS

↓ 地元中小企業への貢献・地域貢献 産学官民連携



幼稚園での体験的環境学習